

追手門学院大学校友会の支部のご紹介。

追手門学院大学校友会の組織は、「九州支部」「四国支部」「中国支部」「京都支部」「東海支部」「東京支部」の6つの支部と2015年度に新たに創設された「沖繩支部」「和歌山支部」「滋賀支部」の3つの支部を合わせて、合計9つの支部で構成されています。

「追大つながって委員会」では、交遊誌 *LinkA* などを通じて、校友会会員の皆様の交遊・交流を活発にしております。また、支部設立や支部援助も積極的に進めてまいります。支部の設立や同窓会の企画などに関心のある方は、「追大つながって委員会」までお気軽にご連絡ください。皆様のアクセスを心よりお待ちしております。



各都道府県別の校友会会員数

北海道	21名
青森県	4名
岩手県	2名
宮城県	14名
秋田県	8名
山形県	7名
福島県	8名
新潟県	28名
富山県	107名
石川県	156名
福井県	242名
山梨県	4名
長野県	49名
大分県	17310名
兵庫県	7244名
奈良県	1918名
北海道	21名
青森県	4名
岩手県	2名
宮城県	14名
秋田県	8名
山形県	7名
福島県	8名
新潟県	28名
富山県	107名
石川県	156名
福井県	242名
山梨県	4名
長野県	49名
大分県	17310名
兵庫県	7244名
奈良県	1918名

2015年5月現在

◆各支部支部長のプロフィール ユニークさとリーダーシップを兼ね備えた支部長がそろっています。

<p>九州支部支部長</p> <p>岩崎 陽一さん 仕事 語学学校長、短大非常勤講師 趣味 船釣り、ゴルフ、昼寝 クラブ 旅行 好きな言葉 感謝 尊敬する人 各界のリーダーの皆様 出身地 熊本県天草市</p>	<p>京都支部支部長</p> <p>矢島 秀和さん 仕事 学校法人 追手門学院 総務室 人事課 趣味 登山(全都道府県最高峰巡り)・甲冑収集 クラブ 学友会文化会一般芸術部 社会福祉部 好きな言葉 身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ 尊敬する人 この情報誌をきっかけに繋がっていくすべての皆様 出身地 京都府京都市</p>
<p>四国支部支部長</p> <p>中川 純さん 仕事 少林寺拳法の専門学校教員 趣味 旅行、友人とお酒を飲むこと クラブ 少林寺拳法部 好きな言葉 いま、ここ、自分 尊敬する人 宗道臣(少林寺拳法開祖) 出身地 奈良県天理市</p>	<p>東海支部支部長</p> <p>高井 郁子さん 仕事 ファイナンシャルプランナー(生命保険業務) 趣味 様々なコレクション、レース観戦(F1-GT) クラブ 演劇部(2代目部長)・ポート部(マネージャー) 好きな言葉 叩けよ、さらば開かれん 尊敬する人 北川正恭(早稲田大学教授・元三重県知事・元衆議院議員) 出身地 三重県津市</p>
<p>中国支部支部長</p> <p>筒井 弘祐さん 仕事 コンビニ(セブンイレブン)経営 趣味 散歩と良い店を探して食べに行くこと クラブ 児童研究会 好きな言葉 感謝 尊敬する人 鈴木敏文(セブンイレブン会長) 出身地 岡山県</p>	<p>東京支部支部長</p> <p>島田 朗仁さん 仕事 株式会社 株栄美通信 総務部・営業管理部 部長 趣味 ラグビー観戦 クラブ ハンドボールクラブ 好きな言葉 臨機応変 尊敬する人 特になし 出身地 香川県高松市</p>

「追大つながって委員会」は、*LinkA*を中心に、校友会会員の皆様のネットワークづくりをサポートしていきます。

追手門学院大学校友会交遊誌 *LinkA* は、追手門学院大学卒業生を支援する初めての広報誌です。卒業生の中には、企業経営者やショップオーナーあるいはビジネスワーカーとしてビジネスシーンで大活躍されている方がたくさんいらっしゃいます。そんな「追手門の人間国宝」とも言うべき方々のご活躍を広く校友会会員の皆様に伝えるとともに、彼らのさまざまな成功ノウハウや苦闘話を共有できるような新しいネットワークを構築することで、ビジネスシーンにおける会員間の交流を促進させたい...という思いから、校友会で「追大つながって委員会」を立ち上げ、より広く分かりやすく会員の皆様に情報をお届けするために、この交遊誌 *LinkA* を企画しました。このような交流活動や情報発信は、在学生たちへの高い意識づくりに貢献できることと考えています。校友会ホームページでは、「追手門学院大学校友会」「会員タウン情報」「校友会全国ネットワーク」などの枠で、支部(エリア)や各業界の情報発信を実施します。また、校友会では、卒業生がオーナーのショップや会社、事務所の広告出稿をお手伝いいたします。さらに、イベント企画・運営、セールスプロモーション戦略など、追大卒業生だけの特典がもらえる、うれしい情報が満載の投稿型サイトも企画・運営します。ぜひ、アクセスしてください。

小林 武則さん
 Takenori Kobayashi
「追大つながって委員会」委員長
 ●80年度卒業(11期生)
 ●経済学部経済学科
 ●コバヤシ産業株式会社 代表取締役社長
 http://www.kobayashi-ind.com/
 takenori@kobayashi-ind.com
 株式会社 小林武則

交遊誌・ホームページ掲載希望者募集中 (掲載対象)国内外を問わず、追大卒業生で、校友会会員であること (ジャンル)○グルメ(飲食・お菓子)○旅行(ホテル・旅館・旅行代理店)○住まい(不動産・住宅・相談)○医療・福祉・介護・保険○学校・予備校・塾・カルチャースクール○美容院・エステサロン○卸・製造など (掲載料)無料 (ご注意)内容などにより校友会の承認が得られない場合、掲載いたしかねる場合もあります。予めご了承ください。また、届け出の連絡が取れない場合(例えば電話が通じないなど)、閉店などが認められた場合には掲載を中止させていただきます。(掲載申し込み)校友会ホームページからの申し込みに限りますので、ご理解とご協力をお願いいたします。



発行・編集: 追手門学院大学校友会「追大つながって委員会」
 〒567-8502
 大阪府茨木市西安成2-1-15
 TEL.072-643-6135 FAX.072-643-6099
 URL: http://ogu-koyukai.com E-mail: info@ogu-koyukai.com
 発行日: 2015年11月1日

ひとりひとりをつなぐ・むすぶ

OGU *LinkA*

追手門学院大学 変わるもん、おうてもん。

2015/11 創刊0号

Published by 「追大つながって委員会」

追手門学院大学校友会 交遊誌 リンカ

この指とまれ!

いよいよ、創立50周年に向けて「追大つながって委員会」始動します! 多くの校友会会員様のご参加を募ります!

追手門学院大学校友会の皆様、いかがお過ごしでしょうか。いよいよ2016年、本学は、創立50周年という記念すべき年を迎えます。そこで、私たち校友会では、会員様ひとりひとりを結び、新たなネットワークを生み出す活動をすすめる組織「追大つながって委員会」を発足させることにしました。同じゼミ、同じクラブで時を過ごした仲間でも、時間が経つにつれて疎遠になるものです。「あいつは今どうしているんだろうな...」そんな気持ちを再びつなくような、「母校愛」を育てるような組織に育てていきたいと考えています。創立以来の歴史の中で、母校には、約5万人の卒業生がいます。そのひとりひとりを「顔の見える個人」として、お互いにつながり、交流を促進していきける活動を追手門学院大学校友会交遊誌 *LinkA* を通じて起こしていきます。私事ですが、昨年、追大のイベントで後輩に当たる5期生のフォークバンドのライブに飛び入り参加しました。40年もの歳月を超えて、私は追大生に戻っていました。このような感動を一人でも多くの校友会会員の皆様に体験していただきたい、という思いで、この交遊誌を企画しました。50周年はもちろん、60周年、70周年...100周年を視野に入れ活動してまいります。皆様の振るってのご参加をお願いします。ともに「追大」を盛り上げてまいりましょう。さあ、この指とまれ!

林田 隆行さん Takayuki Hayashida
 追手門学院大学校友会会長 学校法人追手門学院理事
 ●71年度卒業(第2期生) ●文学部社会学科(現・社会学部)
 ●トップ金属工業株式会社 代表取締役社長
 http://www.topdie.co.jp t.hayashida@topdie.co.jp 林田隆行 検索



ベトナム赴任時、日本語学校の同僚の先生とアオザイを着てポーズ！

自由奔放な行動の根底にあるのは「人が大好き」という、やさしく温かな心。日本語教師は、世界で活躍中。

じっとしていることがない…という藤田さんの行動範囲は世界レベル。自由奔放です。大学卒業後、ワーキングホリデー・ビザを取得してカナダへ。5年間、ロッキー麓のホテルの土産物販売員として過ごします。その後、一時帰国した際に訪れたタイに魅せられて、2006年には3か月間、タイの日系企業で働きました。学生時代から興味があったという日本語教師への道を歩みはじめたのは2009年のこと。2歳年上の追大の先輩から紹介された日本語学校「アークアカデミー」の教師養成コースの門を叩き、見事、日本語教師の資格を取得しました。2011年には、同校に就職。現在、非常勤日本語教師として活躍中です。2012年から一年半にわたって、ベトナムでEPAに関わる看護師・介護士さんたち150人の日本語教育を担当。「その時の生徒さんたちは今、日本に来て医療機関や介護施設で働いています。今も時々会ってますよ。小学生の頃からお父さんと基礎英語を学ぶなど、外国語に興味があった藤田さん、いわく「とにかく外国語を学ぶとコミュニケーションの輪が広がります」。じっとしていることができない…という性分ながら「ここ3年ほどはベトナムで教えた生徒さんたちのサポートがしたい」と日本に留まる事を決意。彼女の根っこには「とにかく人が好き」というやさしい気持ちがしっかりと根付いているようでした。



藤田 真由さん
Mayu Fujita

- 96年度卒業(27期生)
 - 文学部社会学科(現・社会学部)
 - 日本語学校アークアカデミー 非常勤講師
 - 日本語教師
- http://jp.arc-academy.net
mayufujita@yahoo.co.jp

f 藤田真由 検索



官浪 伸次さん
Shinji Kannami

- 78年度卒業(9期生)
 - 経済学部経済学科
 - 大学祭実行委員
 - 占い研究会
 - 有限会社ケイ・エヌ 取締役社長
 - 官浪の文具塾 塾長
 - 武庫川スポーツクラブ 会長
- http://hasirubunbougu.jp/
kan0024kn@bca.bai.ne.jp

f 官浪伸次 検索

「走り続ける文房具屋さん」は文具ファンとマラソンランナーを束ねて今日も走り続けています。

「とにかくお祭の準備をするのが大好きで…」と官浪さん。大学在籍中の4年間は、大学祭実行委員を務められ、学生を束ねていました。「形のないものが、どんな具体化していくのが楽しかったですね」。卒業後は、文具卸の会社に就職。働きはじめて19年ほど経った時、大きな転機が訪れました。社長が倒れて会社が倒産したのですが、「実はつぶれてうれしかったんですよ。これは、最大のチャンスだ」と、独立。以来、18年間、文具具屋を経営されています。キャッチフレーズは「走り続ける文房具屋さん」。この言葉が出てきた背景には、官浪さんが続けているマラソンがあります。一生に一度フルマラソンが走りたい、とはじめてマラソンの経歴は、なんと30年で完走255回以上、200回では、大手新聞などで目大々的に報道されました。今や、マラソンの世界で官浪さんを知らない人は、モグリだとも噂されるほど。現在、250人のランナーを束ねる武庫川スポーツクラブの会長を務められています。本業では、「文房具ソムリエ」として一般の人たちを集めて文具の発展的使用法などを伝える「官浪の文具塾」塾長としても活動されています。「人を束ねて、楽しいひとときを過ごす」。学生時代に身につけた「思い」を胸に、今日も官浪さんは、走り続けていらっやいます。



フルマラソン完走255回目に、思わずピース！



「追大つながって委員会」

魅力いっぱいのOB・OGに、ぜひ、つながってください！

今回の追手門学院大学校友会交遊誌 *Link A* は、創刊0号。いわば創刊準備号です。そこで、とても個性的な4人のOB・OGにご登場をお願いし、学生時代に得たことや卒業後に役立った経験などをお伺いしました。魅力いっぱいの4人にご興味を持たれたら、ぜひ、ホームページにアクセスしたり、メールを送ったり、FBに友だちリクエストしたり…つながってください！

Link A の由来: 追手門学院大学の宝物となる活躍をしている卒業生を紹介しながら、校友会会員の皆様のネットワークづくりのお役に立ちたいという思いから、「つなく=Link」と「宝物=A(エース)」を組み合わせでネーミングしました。また、*Link A* は「輪花」にも通じ、会員の皆様の輪が広がりが咲くように、という願いも込められています。



大島島の衣装を身にまとい愛用の三線を弾いて島唄を唄いあげる。

学生時代に学んだことは、「頼まれたことは断らないこと」。4年生の時に友人から依頼された校友会役員を引き受けたことがきっかけで、「単位取得や就活の問題があって、一旦は断ろうと思ったのですが、「頼まれているうちが花」という思いもあって引き受けました」と秋吉さん。卒業後は、インテリア会社に。しかし、在学中に所属していたピアノ・電子オルガン・インストゥルメンタル部で身につけたステージづくりの体験を活かしたいと音響会社に転職。さらに「人に喜ばせてほしい」という思いを遂げるため、今は、ホテルに就職して、イベント企画や空間づくりに携わっています。「多くの人生のテーマは「結」です」と語る秋吉さん。仕事もそうですが、趣味でもこのテーマが活かされています。そのひとつが奄美大島の島唄。元ちとせがデビューした頃、その美しい唄声に魅せられて訪れた奄美。初めて訪れたとは思えない懐かしさがあったのですが、父親によると、実は幼い頃に、奄美に連れて行ってもらったことがあったのだとか。今年、地元の民謡大会にも出場。島出身者でもなく、かつ体験教室出身で大会に出場した人は皆無だそうです。つながって、助け合って生きている島・奄美。この島を第二のふるさとにして、秋吉さんは、これからも「結」をテーマに、新しい縁をつないでいかれます。

第二のふるさと奄美大島は結の島。美しい島唄を口ずさみながら、人に喜ばれる仕事をずっと続けていきます。

秋吉 崇仁さん
Takahito Akiyoshi

- 01年度卒業・第32期生
 - 経済学部経済学科
 - ピアノ・電子オルガン・インストゥルメンタル部
 - 校友会副委員長 議長
 - KKRホテル大阪 販売課 レセプションマネージャー
- http://www.kkr-osaka.com
t-akiyoshi@kkr-osaka.com

f 秋吉崇仁 検索



押川 新一さん
Shinichi Oshikawa

- 83年度卒業・第14期生
 - 文学部英米言語文学科(現・国際教養学部)
 - ESS
 - 第2回オーストラリア交換留学 文学部代表
 - ミノル化学工業株式会社 代表取締役 マーケティングコーディネーター
- http://www.minoru-net.com
oshikawa@minoru-net.com

f 押川新一 検索



「入学した頃は、母校が好きになれなかったんですよ」と笑う押川さん。一浪の時に受験した全校に不合格。もうどうにでもなれ、と高校時代からの友人と追大の願書をひとつ購入し、友人が経済学部で、押川さんが文学部に願書を提出しました。試験には二人とも見事合格。入学後は、いっしょにESSに入ります。そして4年生の時に転機が訪れました。友人が経済学部代表、押川さんが文学部代表として、第2回オーストラリア交換留学生に選ばれたのです。「留学を経験して、チャレンジ精神や自信・誇りを持つことを学び、母校が大好きになりました」。卒業後は、語学を活かしたいと化粧品や雑貨を扱う商社に就職。そして4年後、樹脂製品メーカーの家業を継がれます。「当時、樹脂製品業界は見積競合の下請け仕事でほとんどだったんですが、付加価値提案をして価格をこちらで決められるようなシステムづくりが求められていました。そんな中、生まれたのが、クリア樹脂ケース「ミノルキューブ」。フィギュアのコレクションケースやダイレクトメールとして広く使われているヒット製品です。この人気製品が誕生した背景には、交換留学で学んだ、「チャレンジ精神・自信・誇り」があったといえます。これからも押川さんは、大学時代に手に入れた宝物を胸に、新たな世界にチャレンジされることでしょう。

大学の4年間で学ばせてもらったのは「チャレンジ精神」「自信」「誇り」。その宝物を大切にモノづくり事業を展開。



第2回オーストラリア交換留学の際、カンガルーと戯れる。